



希少金属再利用で連携

名大の分解処理技術軸に

中部の企業・大学が研究会

【岐阜】中部圏の企業や大学で組織するレアメタル(希少金属)の回収・再資源化の研究会が12月に発足する。伊藤秀章名古屋大学特任教授が開発した水熱分解処理技術の実用化研究を開始。「レアメタル資源再生コンビ

ナート構想」を掲げ、最終的には廃家電などからの回収、再資源化、販売までの仕組みを構築する。

研究会の会長は伊藤教授で、事務局はシーエムシー技術開発(岐阜県各務原市、河邊憲次社長、058・379・0686)に置く。すでに岐阜県内のセラミックス関連企業やエンジニアリング企業など約10社が参加を表明しており、中部圏などの企業や大学、公的研究機関など約50社・団体で始める計画。設立に向け30日に岐阜市内で伊藤教授らの講演会を開き、技術説明などをとする。

伊藤教授は廃棄物を高温・高圧処理して、廃家電や産業廃棄物、工場からの廃水からレアメタルを取り出す水熱分解処理技術を実験室レベルで実証している。研究会ではこの技術を核にイオン交換やメカノケミカルと呼ばれる手法などさまざまな要素技術を組み合わせ、低コスト・低エネルギーで高効率に再資源化する仕組みを研究し、実

用化を目指す。

研究会では使用済み工具や磁石、メッキ廃水など廃棄物の種類や、タンクステンやネオジムなど取り出すレアメタルの種類によって分科会を設立する。参加企業が自社の技術を活用し、分野別に回収・再資源化・再利用の流れを構築する。2011年にもレアメタル資源再生コンビナートの基本計画を立案し、産学官による技術研究組合の設立を検討する。

経済産業省は「レアメタル確保戦略」を掲げ、海外資源確保、リサイクル、代替材料開発、備蓄の四つをテーマに具体策を展開。使用済み電子機器などからのリサイクルは重要な資源戦略となっている。